

平成26年度第4回市民協働推進委員会会議概要

- ◎日 時 : 平成26年9月21日(日) 13:30 ~16:15
◎会 場 : 市役所1号館3階会議室
◎出席委員 : 名和田委員長、宇田川副委員長、伊藤委員、近藤委員、田辺委員、渡辺委員、小林委員、大木委員
◎事務局職員 : 井岡自治人権推進課長、鴨志田主査、小田主査補、久保主査補、尾形主事
◎傍聴者 : 0名

◎議題

- (1) 平成26年度地域まちづくり協議会事業について

1. 開会

(省略)

2. 委員長あいさつ

委員長：本日は新規に設立された3つのまちづくり協議会の事業申請について審議を行う。ここ最近、協議会が次々と設立されており、喜ばしく思う。申請書を拝見したが、設立初年度から多くの事業に取り組まれる団体もあり大変頼もしく思う。まちづくり協議会と同様の仕組みは全国的に取り組まれており、それぞれの地域事情に応じて工夫して制度設計をしている。まちづくり協議会が今後発展していくためにも委員の皆さんのご意見やアドバイスをお願いしたい。

3. 議事

①平成26年度地域まちづくり協議会事業について

事務局：議事に入る前に2点程、ご報告があります。1点目は、現在、傍聴人はおりませんが、今後いらっしゃった場合は委員長にご判断をお願いしたい。2点目は、本日のスケジュールですが、青菅まちづくり協議会、井野小学校区まちづくり協議会、山王小学校区まちづくり協議会の順で議事を進めて参ります。事業概要の説明10分、質疑応答30分を目安に、円滑なご審議をお願いします。以後の進行は委員長をお願いしたい。

委員長：スケジュール通りに議事を進行できるよう、ご協力をお願いしたい。本日の会議は、委員定数10名の内8名の出席があり、佐倉市市民協働の推進に関する条例施行規則第18条第6項の規定により成立となる。また、傍聴人がいらっしゃった場合の入退室については、私から指示をする。

1) 地域まちづくり事業の説明及び質疑応答（公開）

委員長：まずは青菅まちづくり協議会について説明及び質疑応答を行う。

事務局：説明に入る前に、質疑応答について対応する協議会関係者2名にご入室いただきます。

委員長：初めに事務局より事業申請の概要説明をお願いする。

事務局：（事業申請書に基づき、青菅まちづくり協議会の事業申請の概要を説明）

委員長：青菅まちづくり協議会の事業申請について、ご質問やご意見はあるか。

委員：2つの自治会が不参加となっているが、その理由は。

青菅：旧村地区で高齢化が進んでおり、世帯数も少ない。そのため今年度の参加は見送りたいとのことであったので来年に期待したい。もう1つは新興住宅街であり、様々な考えを持つ住民が多い地区であり、参加見送りとなった。

委員：不参加の自治会について広報紙を回覧するようになっておりましたが、部数が多少多くなっても値段は変わらないので、できれば未加入自治会の世帯についても各戸配布をした方がよいのではないか。

青菅：先日、自治会長と話をして、回覧してもらうことになった。ポスティングについては検討課題です。

委員：部数が多くてもあまり値段は変わらない。

委員長：今後も全戸配布に向けて交渉していくことが大事である。

副委員長：申請書を見ると、広報事業が一番上にきている。まずは広報が大事という認識は大変素晴らしいと思うので、なおさら不参加の地区については、回覧ではなく各戸配布をしてほしい。各戸配布をすることによって、関心を持ってくれる人は必ずいる。各事業のスケジュールに人数が入っていないが、各部会のメンバーは決まっているのか。

青菅：決まっている。委員は必ずいずれかの部会に属することになっている。

副委員長：決まっているのであれば、スケジュールに人数も記載してほしい。広報紙の関

係ですが、広報紙を作る際に印刷は外部の業者にお願いすると思うが、それ以外のお金のかかる部分について外部業者に頼むのではなく、あくまでも自分達だけで広報紙を作るということか。

青菅：はい。印刷業者を選定するにあたりまして、自治推進課の方から4社程、市に出入りしている入札業者を紹介していただいたので、その中で相見積もりをとった。今回我々、熟練しておりませんので、若干見積もりが甘いところあるが、だんだん精度が上がりますとこちらの方からレイアウト含め、もっと値段を安くできると思う。

副委員長：そうすると編集やレイアウトについては業者さんに頼むということか。

青菅：今回は大まかなレイアウトはこちらで決めました。具体的にこうこうだという詳細は業者をお願いすることも考えている。

副委員長：各部会の人数を教えてください。

青菅：広報部会5人、文化環境部会8人、防災防犯部会7人、生活部会13人となる。

委員：歴史文化事業の歴史セミナー、歴史ウォーキングの内容は。

青菅：先崎の今昔物語という副題で、先崎の住民の方に講師をお願いする予定である。

委員：歴史ウォーキングでは具体的にどのような文化財を回るのか。

青菅：区域内にある10か所ほどの文化財を回る予定である。具体的には、鷲神社、先崎地藏尊等である。

委員長：記録を作成すれば貴重な資料となり、良いと思う。

委員：イベントを行うのであれば広報が大事になる。地域の歴史資産を地元の人には意外と知らない。青菅地区の歴史資産を訪れる人は市外の人が多い。イベントを成功させれば広報もより効果的になると思う。

委員：14・15ページを見ると餅つき交流会というのがあるが、食糧費が1万円計上されているがこの値段だと30kgぐらいの購入量になると思うが、それだとどのぐらいの参加人数を想定しているのか。うちの自治会でも90kgぐらいを購入しているの。

青菅：この事業は実際には今やっている。ひとつ我々がタッチしたかったのは、お手伝い

している人達が高齢化していて、中心になっている人が先崎の方で今年からは辞めさせてほしいと。そうなのが生垣の剪定とかある。今年の春、私も行ったが私が一番年下だった。高齢者の方がだいぶやられてて、まち協の一つの使命として、次の世代の方を育てるといのが一つの使命だと思う。そういう意味で餅つきも変われる方を。中心はPTAなんで費用もPTAが全部出している。今までは先崎の年寄の方がそこにお手伝いに来ていた。そういう方たちもサービスでもち米とか提供していた。要するに子供たちが食べる費用についてはPTAが負担して、今回我々が予定している費用はそこにお手伝いに来た人たちの分を計上している。

委員：そうであれば計画書に参加人数の記載があれば予算との比較もしやすくなるので、記載をお願いしたい。

委員長：13ページに世代交代のお手伝いをするという記載があり、私も同様の質問をしようと思っていた。1つの地区でやりきれなくなったことを、範囲を広げて地域で協力して行うことがまち協の意義の1つであるので期待している。

青菅：祭りについても先崎だけで行うのは限界がある。今後、先崎地区だけでなく地域全体で支えていければよいと考えている。

委員長：他の協議会でも同様の事例で上手くいっている事業があるので、ぜひ頑張ってください。

青菅：まち協が直接関わることを快く思わない人もいるので、まずは陰で支えていきたい。

委員：充電バリカン8万円となっているが、これは何台分か。

青菅：2台で8万円である。

副委員長：生活部会は民生委員が中心となるとのことだが、組織として民生委員が各自治会を動かすのは難しい。具体的にどのような指示系統を考えているのか。

青菅：この地域はまとまりがない。宮ノ台クラブという老人会と、アクションクルー宮ノ台という一種の老人会みたいなもの、社協と、クライネスサービスというNPO、そういうものが個々にやられている。スクールガードも同じ様なもので。これらの団体をまとめていくことが、これから地域の文化を支えるためには必要になっていくだろう。それを行うのがまち協。

委員：防災事業について中学生に対して呼びかけは行わないのか

青菅：来年度以降、中学生の活用を考えていきたいが、井野中学校の生徒の約半分は青菅小学校区以外の生徒であるため難しい。

委員：そなエリアへの見学についても10名となっているが、広く広報をしてより多くの人数で現地集合で行うことはできないのか。

青菅：誰もそなエリアに行ったことがないため、今年は来年度のための準備として下見という位置づけで見学に行く。

委員：歴史セミナーは参加者60人となっているが、これは増やせないのか。歴史ウォーキングの参加者100名と比べると少ない印象を受ける。

青菅：歴史セミナーに参加した人の口コミ等も見込んで歴史ウォーキングは100名を想定している。

委員長：他になれば青菅まちづくり協議会の質疑応答は以上で終了する。続いて井野小学校区まちづくり協議会の質疑応答に移る。まずは事務局より概要の説明をお願いします。

事務局：(事業申請書に基づき、井野小学校区まちづくり協議会の事業申請の概要を説明)

委員：2つの自治会が不参加となっている理由は。また、今後、加入に向けてどのような働きかけをしていくのか。

井野：1つは、毎年、会長が変わる自治会でかつ今年度は大きな行事が立て込んでおり一緒に活動することは難しいとのことであった。なお、その自治会からはまち協で人選をして、自治会長がそれを承認するという形であれば参加はできるというお話であったので、次年度からはそのような形で参加してもらえるように進めていきたい。もう1つは、小さい自治会であるが、自治会内でおはかりしたところ反対意見が多く出たため不参加となった。また、その自治会は世帯数が少なく、高齢化も進んでいるため一緒に活動するのは難しいという話もあった。今後は両自治会に対して、まち協に参加するメリットを広報等でPRし、参加につなげていきたいと考えている。

副委員長：部会が4つあるが、各部会の振り分けはどのように決めたのか。

井野：各委員から希望をとり、それを基に決めた。

副委員長：例えば、まち協全体で防災訓練や防災講演会を行うことによって、今まで個々

の自治会で行っていた訓練や講演会の負担を少なくすることもできる。

井野：個々の自治会で行っていた活動をまち協でまとまって行うことで横のつながりもできるという話をしたら、賛成してくれた人もいた。

委員：井野小学校で行う防災講演会の参加人数が500～600名となっているが、これは今までも行っていたのか。また、児童は参加するのか。

井野：今年度初めて行う。児童の参加については、未定である。これから部会で検討し、学校と調整する予定である。

委員：防災講演会について、中学生にも声掛けはするのか。

井野：詳細は未定だが、中学校にも関わっていただく予定で考えている。

委員：防犯パトロール活動の消耗品費10万円の詳細は決まっているのか。

井野：防犯ステッカー等にも充てるつもりである。

委員：地域発見事業の具体的な例はあるのか。

井野：学区内に長割遺跡や加賀清水等がある。その他にも知られていないだけで沢山の歴史・文化資産がある。そういったものを発見し地域に広げていきたい。まずは、自治会にアンケートを行い、活動内容の把握をしたいと考えている。

委員：新しい住民が多いので、地域のことを再認識してもらうことが大切である。

副委員長：広報紙の予算は20万円で足りるのか。

井野：得意な方が広報部会におり、レイアウト等も自前で行うことを考えているので、予算は20万円とした。

委員長：先程の事業説明で20自治会中12自治会が防犯パトロールを行っていないという説明があったが、そのような認識でよいか。

井野：まだ、アンケートの集計を行っている段階で確定ではないが、概ねその通りである。

委員：10ページの全地域地図印刷とあるが、具体的にはどのようなものか。

井野：地域内の各自治会の区割り等を示した地図を考えている。近隣にどのような自治会があるのか知らない人も多い。

委員：会場使用料に千円が計上されているが、これは小学校を想定しているのか。

井野：小学校が使用できない場合の自治会会館使用料を想定している。

委員：先程、20自治会中12自治会が防犯パトロールを行っていないとの話だったが、12月に全区域一斉防犯パトロールを行うとあるが、今までパトロールを行っていなかったところが、いきなり行うのは危ないと思われる。そのための講習会等は考えていないのか。

井野：すでにパトロールを行っている自治会と一緒にいながらノウハウを教えていく。

委員長：他になければ井野小学校区まちづくり協議会の質疑応答は終了とする。続いて山王小学校区まちづくり協議会の説明及び質疑応答に移る。まずは事務局から概要の説明をお願いします。

事務局：(事業申請書に基づき、山王小学校区まちづくり協議会の事業申請の概要を説明)

委員長：12事業の内、各自治会や学校行事等で取り組んでいたものをベースにしている事業はどのくらいあるのか。

山王：青色防犯パトロール、防犯講習会、防災講習会については、山王自治会で行っている活動をベースにしている。登下校の見守りは、PTA やボランティアが個々に行っていた活動をベースに地域全体としてまとめ組織的に行う。稲作体験は、フクロウの会で行っている活動がベースになっている。高齢者の見守りについては、現在、山王自治会で要援護者の登録台帳を作成し、自治会を通じて呼びかけを行っているが、この取組では、活動区域を小学校区に広げて、小学校区内の高齢者の見守り・支援を広げるため、啓発用ポスターの作成し・掲示を掲示板、集会所等で行うことを計画している。

委員長：自治会や団体で行っている活動をベースに地域全体に広げていくというまち協らしい事業であると思う。

委員：ベースがある事業は既に組織的な活動をしているのか。

山王：防犯パトロール、防災講習会、防犯講習会については、組織的に行っている。

委員：19ページの高齢者の見守りについて、地区で要援護者の名簿を作成することはすばらしいことだが、名簿だけでなく地図に示すとよりわかりやすくなり、災害時に役立つ情報になる。マップを作成することは考えていないのか。

山王：マップの作成については、外部に流出した場合に悪用される恐れがあるため、現時点では考えていない。

委員：塵芥の不法投棄対策については、回収するだけではたちごっこになってしまう恐れもあるため、予防についても考えていただきたい。また、湧水調査については、防災の観点からも大事な事業であると思うが、水質検査は費用がかかるので、もう少し予算を計上した方がよいのではないか。

山王：水質検査については、部会でも話し合っている。井戸には電動式と手動式があり、また、検査にあたって所有者の協力も必要になるため、どの井戸を検査するかは検討中である。今年度については、調査が中心となり、水質調査については来年度から行うことを考えている。

副委員長：まち協の活動は3つの自治会が中心になり、既存の事業を発展的、広域的に広げていくことは良いことだと思う。そこにまち協がどのように関わっていくのか。例えば、各部会メンバーが既存の事業にどのように関わっていくのか。また、各部会の人数を教えてほしい。

山王：防犯7名、防災9名、環境美化保全7名、広報5名、地域の教育・文化が6名となっている。

副委員長：既存の事業をまち協で広げていくためには、多大なエネルギーが必要になるが、今の部会の体制・人数で大丈夫か心配である。

山王：今ご報告した部会ごとの人数はあくまでも委員の割振りだけであって、各部会には一般住民等も部会メンバーとして入ってもらう予定である。

副委員長：既存の事業をまち協で広げるためには、まち協の関わりを強めていけるようにしてほしい。1年目からは難しいかもしれないが、まち協をベースに進めていってほしい。

山王：1年目からまち協が主体になるのは難しいかもしれないが、来年度からはまち協が中心となって計画を作り、進めていきたいと考えている。

委員：原風景の保全や校区内歴史学習は、山王自治会だけではできなかった事業である。太田区や大篠塚区の協力がないとできない事業で、こどもたちに佐倉やふるさとの良さを伝える素晴らしい事業であると思う。

委員：太田地区や大篠塚地区という旧村地区と新興住宅街である山王地区との違いはあると思うが、防犯や登下校の見守りも範囲が広大になるので、大変だと思うが地道に活動を広げて行ってほしい。

山王：世帯数は山王自治会が圧倒的に多いが、山王自治会が突出して進めてしまうことがないように、太田区、大篠塚区と連携を取りながら進めていきたい。

委員：スケジュールに活動部員の呼びかけ・勧誘とあるが、勧誘や呼びかけの具体的な方法は。また、21ページの見守り呼びかけパンフレット類ラミネート作りとあるが、これは具体的にどのようなものか。

山王：各事業分野の経験者を中心に、回覧で呼びかけを行うことを考えている。自発的に活動したいという方を選んでいきたい。ラミネートについては、高齢者見守りをする理由や実例等をチラシにして配布することを考えている。また、ポスターも作成し、掲示板や集会所への掲示も考えている。

副委員長：湧水調査事業は良い事業だと思うが、もう一步進めて防災井戸として提供してもらえぬ井戸を探してみてもどうか。非常時に防災井戸として提供することができれば、防災の面からも役に立つと思う。

山王：非常時に防災井戸として提供してもらえぬよう進めていきたい。

委員：各事業で保険料が計上されていない理由を教えてください。また、校区内歴史学習事業の最終的な目標はあるのか。

山王：保険は佐倉市の市民公益活動保障制度を利用する。他に自治会で加入している保険の利用も考えている。また、子どもの場合は学校で保険に入っている。校区内歴史学習事業については、寺社、仏閣、小字等の由来等を調査し、簡単なマップや冊子を作成したいと考えている。

委員：後世に残せるような資料が作成できるよう頑張ってください。

委員：3ページ収支予算で食糧費が計上されていない事業が3つあるが、その理由は。

山王：今年度は、湧水調査、校区内歴史学習、登下校の見守りは計上していないが、次年度以降必要性等踏まえ考えていきたい。

委員長：敬愛短大とも連携、協力しながら活動を進めてほしい。他に意見等がなければ山王小学校区まちづくり協議会の質疑応答は以上で終了としたい。また、次の審議については非公開となる。

2) 地域まちづくり協議会事業の審議（非公開）

4. その他

・委員報酬の支払い日について

事務局：10月上旬のお振込みを予定している。

・次回会議の議題

事務局：行政提案型協働事業のテーマ案を現在募集しているので、その動向を見据えた上で、会議開催の時期等については改めてご連絡させていただく。

5. 閉会

委員長：以上で本日の委員会は終了となる。

平成 26 年 10 月 14 日（火）

委員長	名和田 是彦
副委員長	宇田川 光三
議事録署名人	伊藤 弘輝